

【平成16年度専修学校を活用した若者の自立・挑戦支援事業】

事業名	工業系専門学校生の正規就業を支援するための現状分析と教育プログラムの開発		
学校法人名	学校法人 工学院大学		
学校名	工学院大学専門学		
代表者	大勝 靖一	担当者・連絡先	氏家 正昭 TEL 3340-0141

<事業の概要>

専門学校卒業生が、フリーターに至であろう理由の現状把握調査と分析を行なう。フリーター予備軍の形態を分類し、最適な教育プログラムの開発を行なう。アドバイザリーパネル（生徒の希望等を聞いて適切な教育・就業をアドバイスする助言者集団）が個々の生徒に対応する教育プログラムを提示、実行させて正規就業を目指させる。結果について再度調査し、評価し、正規就業支援の成果を公表する。

<成 果>

事業の目的

工業系専門学校生がフリーターまたはフリーター予備軍にならないようにするために

専門学校生の就職意識調査
支援活動とその効果
専門学校教育への提言

2. アンケート結果

2 - 1 第1回学生アンケート

- ・自分の意識を大切にしたい
- ・自由になる時間が欲しい
- ・仕事がきつなく、高い給料を期待
- ・会社内でのコミュニケーションに不安
- ・技術などで自信がない
- ・自分に合う仕事がわからない
- ・フリーターにはなりたくない

2 - 2 企業アンケート

採用したい

- ・コミュニケーション能力がある
- ・積極的で意欲がある
- ・自己管理ができる
- ・協調性がある

専門学校生の印象

- ・実力はまあまあ
- ・社会人としての心得が身に付いていない
- ・一般常識や基礎学力が不足
- ・視野が狭く消極的

フリーターに対する認識

- ・フリーター経験者の正規採用には否定的
- ・給料20万円以下が60%
- ・採用期間2年以内が60%
- ・30歳以下が75%

【メリット】

- ・人件費が安い
- ・経営の拡大縮小に対応しやすい

【デメリット】

- ・技術の継承がない
- ・新戦力として期待できない

3. 就職支援後のアンケート結果

就職支援(フリーター防止策)

- 就職準備セミナー
- 就職説明会
- 講演会
- インターンシップ
- 自己分析、適性検査
- 個人面談

4. フリーター防止策の効果

4 - 1 就職活動の意識

- ・知識を生かし自分の意識を大切にする
- ・初期の考えを継続して活動
- ・早い時期の活動がよい結果
- ・技術、技能面で自信がない
- ・自分に合う仕事が見つからない
- ・仕事の仕方が理解できるか

4 - 2 フリーターの認識

- ・フリーター容認が減少

【正規就業のメリット】

- ・生活安定、社会的に認められる
- ・キャリアの積み重ねができる

【フリーターのメリット】

- ・自分の好きなことができる
- ・自由時間が多く取れる

4 - 3 その他

- ・資格は是非取得したい
- ・就職相談室を活用したい
- ・講演会が就職活動に影響
- ・社会の動きはあまり知らない
- ・自分に合う職場を探す
- ・自分に欠けている面は直すように努力する
- ・対人関係、仕事上の差別はたえられない

5, 3 施策提言

- フリーターの細分化はフリーターを減らす上であまり役に立つように思えない。
- 個人個人の状況に対応した指導が必要で、これがますます重要になる。
- 専門学校で行えるポイントはいくつかに集約されるが、本質的な解決の糸口にはならない。
- しかしこれを念頭において、今後の研究の手がかりになるかもしれないという希望を持って、今後行うべき施策をあえて記述したい。

1) 社会の仕組みと就業意識の啓蒙

- 学生の社会に対する認識がいかに甘いか浮き彫りにされた。
- これは家庭において父親から学び取れるはずであるが、それがいいのか、自分で独自の社会観を作り上げているのか、今回の研究では明らかにできなかったが、全く驚くべき事実であった。
- 企業の雇用意識を時間かけて説明する努力が必要で、これが就職に対する意識や意義を理解させる機会になるのではないだろうか。

2) 実践教育の充実(インターンシップの充実)

- 今回、少人数、短期間ではあったが、インターンシップを試みた。
- インターンシップをアルバイトと勘違いしている者もいたが、多くは社会体験に満足し、就業意識がしっかりしてきた。
- 2か月に渡るインターンシップを申し出る生徒もいて、いかに座学にまして実践が重要かが認識される。
- 社会ではデュアルシステムの推進をとく学者もいるが、現在の2年という専門学校の体制では難しく、インターンシップの効率よい活用を企業と研究していく必要がある。

3) 就職ガイダンス

- 就職ガイダンスは生徒の就業意識向上には重要である。
- 講師や講演する話題、話し方によっては全く逆効果になる。
- 今回本事業で行った講演はいくつかの点で成功した。
- 1つは他校講演会への出席は、新鮮さもあり、普段よりも緊張して講演を聞いたため、非常に有益だったという感想が多かった。
- 年齢の近い先輩による実体験の講演は、親近感もあり意思疎通も見られ、質疑応答もあり、活気ある講演会となった。
- キャリアカウンセラーや業界アドバイザーによる指導の試みを行わなかった。教員が訓練をつんでこれを行えるのかなど、この効果についても検討する必要がある。

4) 精神的教育の開発と充実

- 今回の事業で、若者たち特有で、今までは顕著でなかった特徴が明確になった。
 - ・個性豊かな自己中心的な考え方。
 - ・仲良しの数人程度の社会では生きられるが、意見の違う者との生き方は下手。
- 社会はもっと広いことをクラブ活動やオリエンテーションなどを通して知らしめる必要がある。

- **忍耐強さの欠如**

(自分の生きてきた環境における、忍耐を経験したことがない者が多い。)

- 本校では根気強くこれに対処する指導を行っているが十分な成果は出てこない。

- **個性を持っていながら自分を隠そうとする性癖格が強い。**

(表面的にはおとなしくして、裏では活発自由奔放に動こうとする性癖格である。)

- 今後この点を考慮した教育プログラムを開発しなければならない。

おわりに

アドバイザーパネルによる生徒の個人別指導は殆ど行えなかった。

- しかしアドバイザーパネルの委員からの提言により本事業のポイントだけは何とかやり遂げることができた。
- 若者の自立・挑戦支援という立場から本事業を振り返ると、この事業の本質の達成には家庭教育、初等・中等教育、社会環境など多くの問題が入り混じって、そう簡単に解決できるものではない。
- 専門学校として地道に進めることが、問題の本質解決の糸口になることを願い今後も努力したい。